

1 題材名 ○○さんに贈るエコ箸

2 目標

- 箸や箸入れの美に気付き、贈る人の使うものをつくりだす喜びを感じ、楽しく取り組もうとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 箸と箸入れの機能性や美しさを考えながら、贈る人に合ったデザインを工夫することができる。
(発想や構想の能力)
- 木や紙の特性を生かし、形や配色を工夫し、美しく使いやすい箸と箸入れを制作することができる。
(創造的な技能)
- 日常で使われている工芸品のよさを見付け、機能美を味わうことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態 (男子15名, 女子14名, 計29名)

事前のアンケート調査の結果、ほとんどの生徒は、今までにカッターナイフや彫刻刀を使って鉛筆や木を削ったことがあるが、小刀を使った経験については、3分の1の生徒がない。さらに、使ったがうまく削れなかったという実態も浮かんできた。また、自分がつくったもので愛用しているものには、トートバックなど家庭科でつくったものやオルゴール箱、鉛筆立てといった図画工作科の時間につくったもの、地域の交流会でつくった焼き物のコップなどがある。今でも大切に使用している生徒がいる一方で、クラスの半数を超える生徒は自分が制作した作品で愛用しているものはないという答えが返ってきた。また、手作りのものをプレゼントした経験について、3分の2の生徒がないということが分かった。

(2) 題材観

この題材では、日本の食文化に欠かすことのできない「箸」を取り上げる。日常、何気なく使っている「箸」を自分の手でつくりだす活動に、相手意識をもちながら、使いやすさや美を追求した造形活動を織り込むことにより、自分の身の回りにある、使い手を考えた機能と美を兼ね備えた工芸品のよさに目を向けることができるのではないかと考える。さらに本題材では、環境を意識し広がり始めようとしている「エコ箸」運動を紹介した上で、端紙や包装紙などを再利用した「箸入れ」づくりへと発展させたい。外出時にも持ち歩け、環境にも優しい「エコ箸と箸入れ」を贈ることにより、身近な工芸品として長く愛用されている「箸」とエコを考えた「箸入れ」のよさを再確認していく。デザインや機能性に目を向けた工芸作品をつくりあげていく楽しさや贈り手を意識した造形活動の喜びと出会えるようにしたい。

(3) 指導観

小刀で木を削り形にしていったり、紙の特性を生かし包む形を考えたりといったつくりだしていく上での基礎的な事項をしっかりと押さえながら、工芸の分野で大切な「用と美」について考えさせたい。そして、一つずつ心を込めてつくり上げた手作りの作品のもつぬくもりや愛着を感じ、大切に使いことうという心を育てたいと考える。○○さんに贈るという相手意識を大切にしながら制作することで、用と美の大切さを味わわせたい。さらに、贈った人から、使いやすさやデザインなど感想を聞き、工芸作品を生活の中で使う喜びを自覚するなど、鑑賞活動も進める。そして、自分でつくり上げた作品を使ってもらう活動を通して、つくりだすことの楽しさや喜びを味わい、感性や創造力、技能などの資質や能力を育んでいきたい。

4 指導計画(9時間扱い)

- | | | | |
|-----|---------------------------|--------------------|------|
| 第1次 | 箸と箸入れの機能美について知り、デザインを考える。 | ----- | 1時間 |
| 第2次 | 木でオリジナルの箸を制作する。 | ----- | 5時間 |
| 第3次 | 紙で箸入れを制作する。 | ----- | 2時間 |
| | 第1時 | 箸入れのデザインを考え、試作する。 | |
| | 第2時 | 紙の特性を生かした箸入れを制作する。 | (本時) |
| 第4次 | 贈ったエコ箸の報告会をする。 | ----- | 1時間 |

5 本時の指導

(1) 目標

- 紙の特性を生かし、使いやすく美しい形の箸入れを制作することができる。

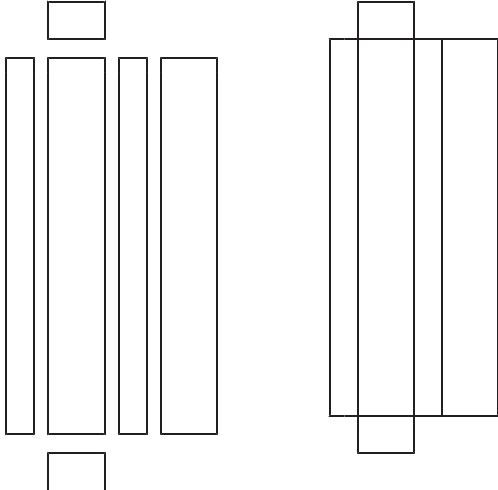
(創造的な技能)

(2) 準備・資料

生徒：箸，包装紙，はさみ，のり

教師：カッターナイフ，水張り用テープ，セロハンテープ，接着剤，刷毛，端紙（厚），学習カード

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題について話し合う。</p>	<p>・試作の形を紹介し、使いやすく美しい箸入れについて話し合い、本時の学習課題をつかむ。</p>
<p>2 箸入れを制作をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">紙の特性を生かし、使いやすく美しい箸入れを制作しよう。</div> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">展開図を厚紙に写す</div> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">切り取る</div> ↓ <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">テープで組み立てる</div> ↓ ↓ <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">包装紙に貼り付ける（表面）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">のりしろ部分を貼り付ける</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">のりしろ以外を切り、折り込む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">包装紙を貼り付ける（表側）</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">包装紙を張り合わせる（裏面）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">包装紙を貼り付ける（内側）</div> </div> </div> 	<p>・試作の箸入れの中から、使いやすく形の美しい箸入れを選び、展開図を確かめるよう指示する。</p> <p>・直線部分は定規をあてカッターナイフを使うことで、シャープさを出せるようにする。</p> <p>・展開図を見て立体がきちんとできているかどうか不安な生徒には、テープ類を使って組み立ててみるよう助言する。</p> <p>・包装紙の組合せについては、贈る相手に合った模様や、表側と裏側の粋な組合せを考えさせる。</p> <p>・のりしろ部分で重なっている所は、45度にカットし、重なりがなくなるとできるようにするよう助言する。</p> <p>・木工用ボンドを刷毛でぬる際は、塗り残しがないよう注意し、包装紙との間に空気が入らないように丁寧に貼り合わせるよう助言する。</p> <p>・曲面をつくるときは、机の角などに紙をあて、滑らせるようにしながら徐々に丸めさせる。</p> <p>・なかなか仕上がらない生徒には、参考作品を見せたり、実演したりしてスムーズに制作が進むように支援する。</p> <p>・接着剤については、紙の種類によって選択させたり助言したりする。</p> <p>・早く仕上がった生徒には、新たな箸入れを制作するよう指示する。</p> <p>・箸入れが完成した生徒には、実際に自分の制作した箸を入れ、機能性を確かめるよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>紙の特性を生かし、使いやすく美しい形の箸入れを制作している。</p> <p>(創造的な技能) 観察, 作品</p> </div>
<p>3 友人の作品のよいところや工夫しているところについて話し合う。</p>	<p>・周りの友人の工夫している作品や新たなよさや美しさを感じられる作品について話し合うことで、自分のこれからの表現や次時の学習の手掛かりとする。</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、学習カードに感想を書く。</p>	<p>・制作の進み具合だけでなく、本時の活動の中で感じたことや気付いたことなど、心の働きを大切に、学習のまとめをしていく。</p>